

日本人とは何か？（二）

——不安と自殺と救済——

古 澤 允 雄

On the Identity of Japanese People (2)

Mitsuo FURUSAWA

〔1〕 二人の外国人

シェイクスピアの劇団が本拠地に行っている「グローブ（地球）座」の入口には、「すべての人間は役者」という銘文が掲げられ、劇場の旗には地球を担ぐヘラクレスの像が描かれていた¹⁾。

地球を担ぐヘラクレス——つまり、筆者の考えがこの旗に象徴されている。地理的、物理的には、筆者自身は日本という国の中に住む微小なアリのような一片の生き物にすぎないのである。然し筆者の心の中では、微小なアリのような筆者が巨象以上の日本を担いでいるのである。筆者自身と日本とは対極にありながら、心の中では常に日本、または日本人について考えながら生きているのである。何故なら、筆者自身が日本人であるからである。

日本人は多民族国家であるのに単一民族であるとされ、日本文化にはいくつもの特殊な地方文化が存在するのに、単一文化しか存在していないように見られている。それは外国人の評価に依拠しているからであろう。

外国から日本を分析した学者として、有名な『菊と刀』(1946)を書いた Ruth Benedict(1887-1948) がいる。日本人は「菊の優美さと刀の殺伐さを兼ねそなえた民族である」というの

平成16年2月28日 原稿受理

大阪産業大学 教養部

1) 近藤雅人（編集）『世界の文学（1号）——シェイクスピア、ラシーヌほか』（朝日新聞社）1999年，pp. 2～020。

である²⁾。この言葉は、日本人の複雑な性格を見事に浮き彫りにしており、この著書はロングセラーになった。

Benedict は、日本人の外面的な行動の描写と、それらの行動の背後にある日本人の基本的な考え方を分析して、西欧の善と悪、精神と物質の二元対立観の伝統の上に立って、西欧を「罪の文化」、日本を「恥の文化」として捉えている。

然し、Ruth Benedict は一度も来日したことがなかったのである。彼女の「感謝のことば」にあるように、第二次世界大戦中に在米していた日本人、とりわけ Robert Hashima からの証言と数多くの資料に基づいて作成したのである。日本で生まれ、日本の教育を受けて、戦時中アメリカに住んでいた日本人は、大戦中は外国人隔離収容所に抑留され、当時のアメリカ人から疑惑の眼で見られていたのである。そのような状況下に置かれた日本人の価値観の体系を、Benedict が着想し、著作したことは、大きな意義があったのである。

これに対して、実際に来日して、埋もれていた数多くの怪談を発掘し、明治時代の日本人を愛したもう一人の外国人がいた。それは Lafcadio Hearn (1850-1904)、日本名小泉八雲である。彼は明治37年に亡くなったが、2004年で没後100年目にあたるのである。

1884年12月、ニューオーリンズで百年祭記念博覧会が開催されたとき、ニューヨークの出版社ハーバー社の依頼で会場を視察した Hearn は、日本の美術工芸品に大きな関心を示して連日のように訪れ、好意的な記事を書いていた。2年後ニューヨークに戻ると、当時高まっていた東洋への関心を捉えようというハーバー社の企画で、Hearn は日本の取材記事を書くために、渡日することになった。

Hearn が日本の横浜にやって来たのは1890年（明治23年）4月4日であった。新聞記者としてではなく、島根県尋常中学校の英語講師として、その年の8月松江に赴任した。前任の教師たちは西洋文明を礼賛し日本を遅れた国であると蔑む傾向があったのに対して、Hearn は日本固有の文化を愛し、日本の伝統的生活様式にも積極的に慣れ親しんだので、松江の人々から敬愛されるようになったのである³⁾。

Hearn は、朝に^{あした}神棚に向かって礼拝し、夕には^{ゆうべ}仏壇の前に坐って先祖の人々に感謝の気持ちをこめてお祈りしている当時の日本人を見て、「こんなに心の優しい、深い愛情をもって神や仏を崇拝する民族はない⁴⁾」と言って、日本人を誉め称え、日本人の心の美しさに魅了されたのである。

然し、この Hearn でさえ、後年日本人が素朴さを忘れ、贅沢をし、コストが高くなる将

2) ルース・ベネディクト；長谷川松治（訳）『菊と刀』（社会思想社）訳者解説より。

3) 和田久實監訳『小泉八雲 日本の心』（彩図社）平成15年、pp.247～248。

4) 梅原猛『梅原猛の授業 仏教』（朝日新聞社）2002年、p.230。

来の危険性を危惧して、日本の美しい自然が失われていく状況に警告を発している。「自然は偉大な経済家である。自然は過ちを犯さない。生き残る最適者は自然と最高に共存できて、わずかなものに満足できる者である。宇宙の法則とはこのようなものである」と述べ⁵⁾、自然との共生がいかに大切であるかを将来の日本の動向を見据えながら説いていたのである。

Lafcadio Hearn が死んで100年、Benedict の『菊と刀』が発表されて50年以上が経過したが、今日の日本人はどのように見られているのだろうか。戦後の廃墟の中から奇跡的な経済発展を遂げ、米国に対して毎年大幅な貿易黒字を生み、貯蓄ばかりして消費にお金を使わないから、日本人は「エコノミック・アニマル」とか、「集団帰属意識が強い」とか、あるいは日本人は「異質」とか、「特殊」な国であると批判されてきた⁶⁾。

然し、最近では、アメリカンスタンダードを軸にしたグローバリゼーションという渦に巻き込まれながら、少しは改善されたとはいえ、未だに残っている銀行の不良債権処理問題や、リストラによる失業者の増加に喘いでいる日本の現況を、「朝日新聞」の記事から数値的分析を行うことによって解明したいと考えている。そして日本人の自殺の形態を分析し、筆者が追求してきた人間の救済について論じたいと考えている。

これまで「アメリカの社会と文化」、及び「ヨーロッパの社会と文化」の講義を担当してきたが、日本及び日本人の現況を知ることにより、上記の講義をさらに鮮明にすることが出来ると考え、この論文を作成したつもりである。

〔2〕 日本人を不安にさせる数字

作家の五木寛之氏は「いま、ぼくらは、なんともいえない不安の中に生きている」と言っている⁷⁾。「なんとなく」、そして「言い表しようのない」、そんな不気味で曖昧な感覚が重くのしかかり、気持ちを暗くするだけでなく、体の状態までおかしくさせるのが不安であると、言うのである。心配でもなく、ビニール質のようにねばっこいのが不安であり、つねに不安につきまとわれながら生きている、と言うのである。

然し、不安があるからこそ、人間は生きる力を生みだすのである。即ち、不安は電車を動かすモーターに流れる電力のようなものであり、不安は生命の母であると言っている。人は

5) 和田久實監訳『小泉八雲 日本的心』p.3。

6) 古澤允雄「日本人とは何か」(大阪産業大学論集(人文科学編)第100号)2000年3月、p.137。

7) 五木寛之『不安の力』(集英社)2003年、p.8。

不安と共に生まれ、不安を友として生きていかなければならない。不安を追い出すことはできないし、決してなくなるものでもない、と自らを説得しながら、五木寛之氏は「不安は人間を支えていく大事な力⁸⁾」であると結論づけている。

それでは、現実の問題として、日本人を不安にさせている数字のいくつかをあげてみよう。

(1) 老人の増加（厚生労働省）（2003年9月9日）

日本人を不安にさせている最大の原因は少子高齢化が急速に進んでいることである。2003年9月9日、厚生労働省が発表した全国高齢者名簿によると、国内の100歳以上のお年寄りが初めて2万人を越えていることが判明した⁹⁾。また、平均寿命も女性が85.23歳で、初めて85歳を越えた。男性は78.32歳で、いずれも上昇傾向は続いている。さらに、9月15日の「敬老の日」に総務省が発表した資料によると、全国の65歳以上の高齢男性が初めて1千万人を突破し、1,026万人になったことが判明したのである¹⁰⁾。男女合わせた高齢者人口は2,431万人で、前年より71万人増加している。人口に占める高齢者の比率は19.0%で、前年より0.5ポイント増えている。

- (イ) 100歳以上：20,561人（内女性は17,402人（84.6%））
- (ロ) 65歳以上：2,431万人（5人に1人が65歳以上）
- (ハ) 平均寿命：女性85.23歳；男性78.32歳
- (ニ) 2025年の65歳以上になる人口：3,473万人
（比率28.7%）（約3人に1人が高齢者となる）
- (ホ) 高齢者人口比率の国際比較
 - (1) 日本：19.0%（前年比0.5ポイント増）
 - (2) イタリア：18.2%（調査年次 01年1月）
 - (3) ドイツ：17.1%（調査年次 01年12月）
 - (4) フランス：16.1%（調査年次 03年1月）

(2) 生活の不安の増加（内閣府）（2003年8月30日）

内閣府が2003年8月30日に発表した「国民生活に関する世論調査」によると、日常生活に

8) 五木寛之『不安の力』（集英社）2003年，p.51。

9) 「朝日新聞」2003年9月12日（夕刊）付

10) 「朝日新聞」2003年8月25日付

悩みや不安を感じている人が3人のうち2人に達していることが判明した¹¹⁾。1958年に内閣府が調査を開始して以来、過去最高に達している。

不安の中身では、半数が「老後の生活設計」を挙げた。今後の生活が「悪くなっていく」と考える人もほぼ3人のうち1人おり、過去最も多くなっている。株価の上昇など経済状況には明るさも見え始めたが、生活意識の面では厳しさが消えていないと、「朝日」は分析している。

また、悩みや不安のある人を世代別にみると、20代が最も低く、59.8%、最も高い40代は72.5%、50代も71.6%と高かった。

(イ) 日常生活で悩みや不安を感じている人：67.2%（前年比3.9%増）

(ロ) 日常生活で悩みや不安を感じていない人：31.5%（前年比4.2%減）

(ハ) 世代別に見た悩みや不安を感じる人の世代別調査

(1) 20代：59.8%

(2) 40代：72.5%

(3) 50代：71.6%

(ニ) 悩みや不安の内容について

(1) 「老後の生活設計」：50.0%

(2) 「自分の健康」：46.3%

(3) 「今後の収入や資産の見通し」：41.7%

(ホ) 今後の生活の見通しについて

(1) 「悪くなっていく」：31.3%（前年比6.2%増）

1968年の調査以来過去最高になっている。バブル期の91年には9.6%しかなかった。

(2) 「良くなっていく」：7.5%（前年比1.0%減）

世代別では20代で「良くなっていく」の方が多い。他は、「悪くなっていく」の方が多かった。

(3) 失業率の増加（総務省）（2003年8月29日）

小泉内閣が誕生して3年になるけれども、景気回復の兆候が全く見られないと感じるのは、失業率を見れば分かる。「自民党を割ってでも構造改革を実現する」と公言してはばからなかったが、「道路公団民営化」にしても、「郵政三事業の民営化」にしても、いずれも自民党議員の抵抗勢力にあい、思うように進展していないと感じるのは筆者だけではないだろう。

11) 「朝日新聞」2003年8月31日付

辛うじて株価が7,000円台から11,000円台（2004年1月19日現在）に回復しただけである。然し、この株価上昇も外国人投資家の依存度が高く、日本の個人投資家が株を買わない限り、景気回復の実現は程遠いと言えるのではないか。さらに、小泉内閣誕生当時は、1ドル130円前後であった円は、2004年1月23日現在では1ドル105円前後にまで上昇しており、輸出経済によって成り立っている日本経済の先行きが不安視されている。

2003年8月29日の総務省が発表した労働力調査によると、7月の完全失業率は5.3%で、前月と同水準であることが判明した¹²⁾。自己都合の失業者が前年同月に比べて16万人減っている。就業者数は6,381万人と前年同月より7万人増え、3ヶ月連続の増加になっている。

男女別の失業率では、男性が5.5%と前月に比べ0.2ポイント低下する一方、女性が4.9%と同0.1ポイント増加し、男女格差がやや縮小している。完全失業者数は前年同月比で10万人減の342万人であった。

近畿の場合はどうか。総務省が発表した8月29日の労働力調査によると、7月の近畿（2府4県）の完全失業率は6.0%で、前月より0.6ポイント低下した。3ヶ月連続の改善で7ヶ月ぶりに前年同月の数値を下回っている。7月の完全失業者は63万人で、前年同月より7万人減少している。

- | |
|--|
| (イ) 全国平均の失業率（7月）：5.3% |
| (ロ) 就業者数：6,381万人（前年同月比7万人増） |
| (ハ) 男性の失業率：5.5%（前月比0.2ポイント減） |
| (ニ) 女性の失業率：4.9%（前月比0.1ポイント増） |
| (ホ) 近畿2府4県の完全失業率（7月）：6.0%（前月比0.6ポイント減） |
| (ヘ) 0.6ポイント低下した理由（総務省） |
| (1) 倒産件数の減少 |
| (2) アジア向けの輸出が好調 |
| (3) 労働力人口の減少 |

(4) 貯蓄ゼロの家庭の増加（金融広報中央委員会）（2003年9月23日）

2003年9月23日に発表した金融広報中央委員会の「家計の金融資産に関する世論調査」によると、預貯金などの貯蓄を持たない家庭が増え、全体の2割を超えていることが判明した¹³⁾。貯蓄ゼロの家庭が2割を超えたのは調査を始めた1963年に1度あっただけである。

12) 「朝日新聞」2003年8月29日（夕刊）付

13) 「朝日新聞」2003年9月23日付

バブル期の1988年には貯蓄ゼロの家庭はわずか3.3%であっただけに、この数字は日本人の生活状況が大変厳しくなっていることを裏付けている。その理由として「朝日」はリストラや賃金カットなどで貯蓄を食いつぶす家庭が増えているからだと分析している。

2003年から7月初めにかけて全国6,000世帯を対象に調査し、4,158世帯から回答を得たが、それによると21.8%にあたる906世帯が、預貯金や株式、保険などの貯蓄（金融資産）を持っていないと答えている。1966年から92年までは1割以下にとどまっていたが、96年以降は常に1割を超えるようになり、今年（2003年）は遂に2割を超えてしまったのである。

また、金融資産を持つ家庭の平均保有額は1,460万円と過去最高であったが、金融資産を持たない家庭も含めた平均保有額は1,099万円と前年比約60万円減少しているのである。同委員会は「二極分化する傾向が強まっている」と状況分析しているが、経済アナリストの森永卓郎氏は、三層構造の新階級社会が出来上りつつあると分析している¹⁴⁾。

- (イ) 預貯金、株式、保険などの貯蓄なし：21.8%
- (ロ) 金融資産を持つ家庭の平均保有額：1,460万円
- (ハ) 金融資産を持たない家庭も含めた平均保有額
：1,099万円（前年比60万円減）
- (ニ) 金融広報中央委員会：二極分化の兆しが強まる。
- (ホ) 森永卓郎（経済アナリスト）：三層構造の新階級社会
 - (1) 年収1億円以上の金持ち階級
 - (2) 年収300～400万円の平均サラリーマン
 - (3) 年収100万円台のフリーター

(5) 少年犯罪の増加（警察庁）（2003年8月8日）

今年上半期（1～8月）の殺人や強盗（未遂を含む）などの重要犯罪は、11,304件で前年同期より約1,600件、2割近く増え、1989年以降の統計調査で最悪になっていることが、警察庁のまとめで判明した¹⁵⁾。検挙率も48.6%と初めて5割を切った。殺人や強盗で逮捕、書類送検された19歳以下の少年（少女を含む）も、ここ20年ほどでは最悪の状況になっている。

上半期の著しい特徴は、殺人など凶悪犯罪で少年の摘発が増えていることである。殺人で摘発されたのは63人で、10年前の93年同期に比べて1.4倍に上り、1979年以降の記録の中では最悪となっている。強盗も93年の2.4倍の876人と急増している。殺人、強盗を含む凶悪犯全体は1,105人で、2倍近くになっている。このように日本の治安が急速に悪化しているこ

14) 森永卓郎『年収300万円時代を生き抜く経済学』（光文社）2003年、pp.108～112。

15) 「朝日新聞」2003年9月22日付

とも不安の大きな原因の要素である。

- (イ) 今年上半期（１～６月）の殺人や強盗などの重要犯罪：11,304件
（前年同期比1,600件，20％増）
- (ロ) 検挙率：48.6％（50％を割る）
- (ハ) 殺人：735件（前年同期比12.2％増）
- (ニ) 強盗：3,919件（前年同期比25％増）
- (ホ) 少年の凶悪犯罪の増加：1,105人（10年前の２倍）
 - (１) 殺人：63人（10年前の1.4倍）
 - (２) 強盗：876人（10年前の2.4倍）

（６）生徒指導の自信喪失（日本教育社会学会）（2003年９月22日）

2003年９月21日に東京で開かれた日本教育社会学会で、「生徒指導の自信」について、日本、英国、中国の各教師の比較調査が報告された¹⁶⁾。日本の教師が「生徒指導に自信がある」と言い切ったのは、わずか６％であった。

国際基督教大学の藤田英典教授らのグループが、日本の小中学校の先生に調査したものである。日本では11都県の約1,300人、中国では上海と雲南省で約700人、英国では全国の約1,400人を対象にした調査であった。

生徒指導や教科指導、教科の知識、学級づくり、部活動の５項目について自信度を尋ねている。このうち生徒指導では「自信がある」と言い切った先生は、日本では６％だったが、英国は47％、中国は73％であった。「やや自信がある」を加えても日本は55％であったのに対し、英国は92％、中国は98％にのぼっている。

日本の小中学校の教師の自信喪失の理由について、福岡教育大学の油布佐和子教授は、「子どもの変化を前に、何とか指導しようとするが、保護者や地域の目が厳しく自信を失う教師像が見える」と分析している。

少年犯罪の増加と生徒指導の自信喪失は決して無関係ではない。その根本的な原因は少子化現象にあると言えるのではないだろうか。過保護的な家庭教育が社会意識の欠けた自己中心的な子供を作り上げてしまうのである。今日の父親や母親では甘やかされた子供の躰ができず、小中学校の先生に指導を依頼するが多いが、小中学校の教師が自信を失っている現状では、日本の教育に将来性はない。小泉首相は、社会性、公共性を尊重する人間を育成

16) 「朝日新聞」2003年９月22日付

する教育改革に一日も早く取り組むべきである。

- (イ) 日本の教師：「自信がある」 6 %；「やや自信がある」を含めると55%
- (ロ) 中国の教師：「自信がある」 73 %；「やや自信がある」を含めると98%
- (ハ) 英国の教師：「自信がある」 47 %；「やや自信がある」を含めると92%

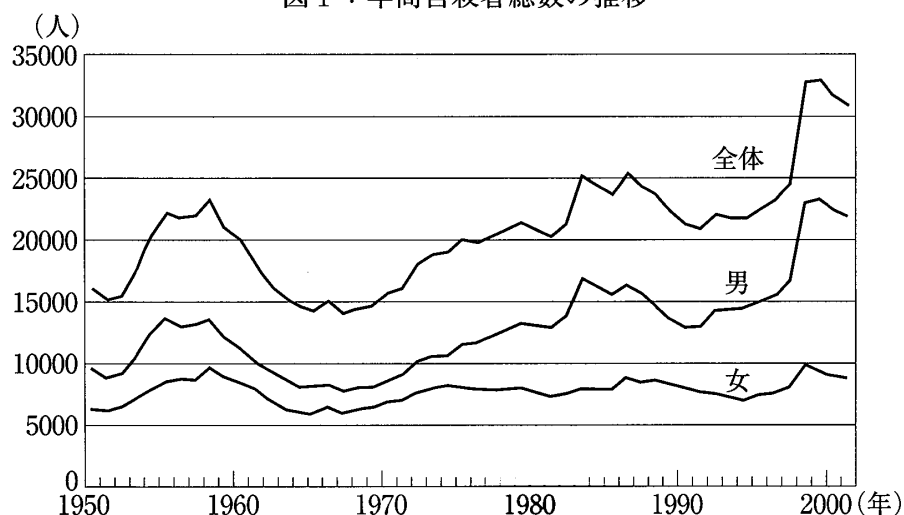
〔3〕 自殺者の増加とその形態

（A） 自殺者の増加

警察庁が自殺について、比較的正確な全国統計をとるようになったのは、第2次世界大戦後のことである。最近になるまでは、年間の自殺者総数は約15,000人から25,000人の間で増減を繰り返してきた。従来の日本の自殺者数は1950年代後半と1980年代半ばに大きなピークを示していたが、1986年には自殺者総数が25,524人となった¹⁷⁾。

1986年には2つの大規模な群発自殺が発生した。同年1月には中学2年生の男子生徒が自殺した。いじめ自殺としてマスメディアがセンセーショナルに報道し、同世代の青少年の自殺が相次いだ。さらに同年4月にはアイドル歌手岡田有希子が飛び下り自殺をしたが、これもマスメディアが大きく取り上げ、若者の後追い自殺が相次ぎ、2週間に30人以上となった¹⁸⁾。

図1：年間自殺者総数の推移



『中高年自殺』(p.17) より

17) 高橋祥友『中高年自殺——その実態と予防のために』(ちくま新書) 2003年, pp.16~17。

18) 同上, pp.17~18。

1988年から1997年までの10年間には、年間平均の自殺者数は22,410人であったが、1998年には自殺者数が32,863人となってしまい、一挙に1万人以上も自殺者が増加した。そして1999年には33,048人、2000年には31,957人、2001年には31,042人となった。

そして2003年9月24日の「朝日新聞」の夕刊によると、2002年には32,143人となり、前年比3.5%増となり、今年連続して年間自殺者数3万人台が続いているのである¹⁹⁾。

2002年の自殺者数の中で、30～50代の自殺者が前年比6.6%と高い伸びを示している。また、大阪府は、1998年から年間2,000人以上が自殺しているため、官民合同の「自殺防止対策懇話会」を10月に発足させている。働き盛りの世代の自殺が目立つことから、連合大阪や市民団体なども加わり、過労や経営不振などに悩む人たちに適切な助言をする体制を整えるためである。

精神科医師の高橋祥友氏は、「人生には、思春期と中年期に二つの大きな峠があることをよく思い知らされる。まず、思春期では、自分とは何か、社会で自分の占める位置はどこか、といった問題に突き当たる。いわば、自分探しの旅が始まるのだ」と言い、中高年の自殺の原因について次のように述べている。

人生の折り返し点も過ぎ、そろそろ定年も視野に入ってくる。残りの人生で自分にできることは何か、できないことは何か、是非ともやり遂げておきたいことは何かを静かに見きわめることを求められる世代である。

自分よりもはるかに能力が劣っていると思われる同僚が周囲からは高い評価を受けるといった場面にも出くわすだろう。しかし、若い時のように他者を非難するわけにはいかない。問題が生じて、じっと黙ってそれを受け入れざるを得ない場面も現れてくる。

また、これまでのように若さにまかせて無理をすることもできなくなってくる。健康上の不安を覚えたり、実際に病気になったりして、人生の軌道修正を迫られるだろう。そこまでいかなくとも駅のホームの階段を駆け上がり、息が上がってしまい、もう若くはないなどと思い知らされることは誰にでもあるだろう。

さらに、問題は自分の身の上だけに起きてくるのではない。結婚している人ならば、子供の自立も大きく目の前に立ちはだかってくる。これまでの親子の関係がある日突然、変化し、個としての子供の存在を認めざるを得ない場面に当惑させられる。関係の変化は、自分と子供との間ばかりでなく、配偶者との間にも現れるだろう。外から見ているかぎり幸せそうな夫婦に離婚の問題が持ち上がるのも、このような中年危機と関連している。

19)「朝日新聞」2003年9月24日（夕刊）付

高橋氏は、このように分析し、40～50代という働き盛りで、一家の大黒柱でありながら、実際には自分自身ばかりでなく、周囲の環境の変化に伴ってさまざまな問題を抱えこむのが、中高年という世代であるから、「中高年の危機」と呼んでいるのである。

(人口10万人あたりの自殺率)

都道府県	自殺率 (人口10万人あたり)
北海道	27.0
青森県	28.0
岩手県	32.0
宮城県	23.0
秋田県	38.0
山形県	26.0
福島県	24.0
茨城県	24.0
栃木県	26.0
群馬県	25.0
埼玉県	21.0
千葉県	22.0
東京都	24.0
神奈川県	21.0
新潟県	33.0
富山県	27.0
石川県	20.0
福井県	22.0
山梨県	23.0
長野県	27.0
岐阜県	24.0
静岡県	20.0
愛知県	21.0
三重県	20.0
滋賀県	20.0
京都府	26.0
大阪府	26.0
兵庫県	24.0
奈良県	17.5
和歌山県	26.0
鳥取県	23.0
島根県	31.0
岡山県	19.0
広島県	21.5
山口県	27.0
徳島県	19.0
香川県	23.0
愛媛県	24.0
高知県	26.0
福岡県	24.5
佐賀県	25.0
長崎県	25.0
熊本県	23.0
大分県	27.0
宮崎県	33.0
鹿児島県	27.0
沖縄県	26.5

全国平均 24.1

都道府県別による自殺状況はどうなっているのだろうか。地方の県の方が都市部よりも人間関係が密接であるのだから、自殺率は地方で低くて、都市部では高いと考えがちであるが、実際は都市部よりも地方の方が高いのである²¹⁾。

都市部から離れた地方の県に自殺率が高いのは、高齢化率の高い県ほど自殺率が高いという一般的な傾向がある。その理由としては問題を抱えてもなかなか気楽に他者に相談できないような傾向や歳をとって働けなくなる傾向があると指摘されている。外国では、家族の数

21) 同上, pp.39~41。

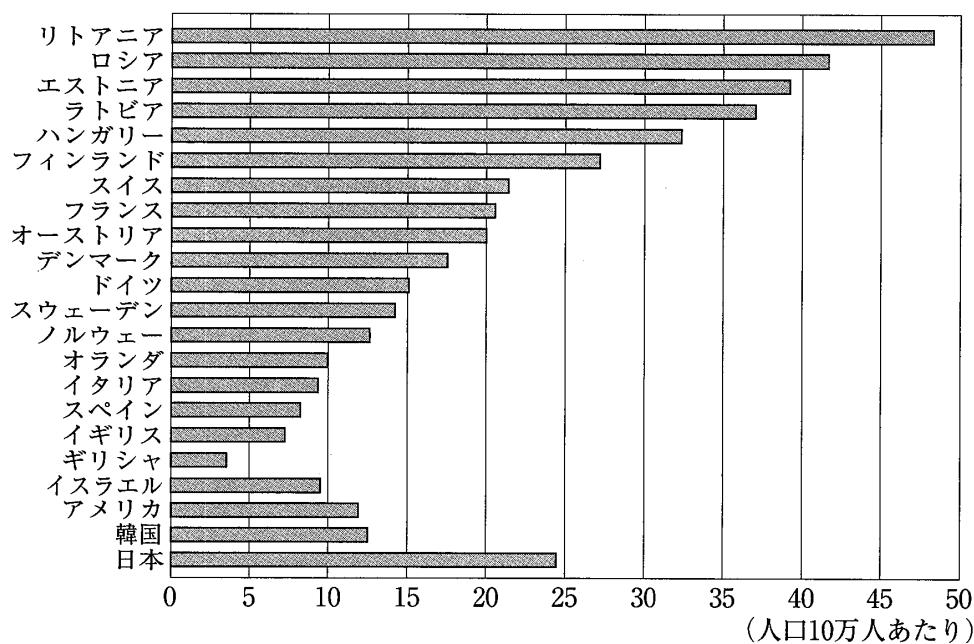
が多いことが自殺を予防する因子となるのに、日本の場合は、多世代同居であっても、その中で深い孤独感を覚えている高齢者の方が、独居の高齢者よりも自殺率が高いという報告があり、家族関係の質が大きく影響しているのである。

外国の自殺率はどうなっているのだろうか。人口10万人あたりの自殺率が25以上の国の中で、リトアニア、エストニア、ラトビアのバルト三国、及びロシアとハンガリーが上位を占めている。北欧のフィンランドとデンマークが次いで高いが、スウェーデンとノルウェーは高くない。これらの国々に対して、南米諸国やスペイン、イタリアといったカトリックの影響を強く受けている国や、ユダヤ教のイスラエルが自殺率10を下回っている。例外はカトリック教国のフランスである。フランスは自殺率が20.8と高いのである²²⁾。

高橋祥友氏は、ハンガリーのペーチ大学精神科のフェケテ博士に、自殺率の高い理由を聞いている。それによると、ハンガリーは伝統的に自殺が許容されるような社会的な風潮があることと、ハンガリー人の性格に原因があると、フェケテ博士は答えている。

ハンガリー人は他者との間に問題を抱えたときに自己の正当性を訴え、他者を責めることを潔しとしない風潮がある。問題があると、他人を責めるのではなく、悪いのは自分だという躰を幼い頃から受けており、攻撃性が内に向うことが、自殺の可能性が高くなっているというのである。そのように考えると、断定は出来ないが、自己主張の強い特性が見られる韓

図3：自殺者の国際比較



『中高年自殺』(p.68) より

22) 溝江昌吾『数字で読む日本人』(自由国民社) 2002年, pp.44~45。

国、イスラエル、アメリカ、イタリア、スペインなどは自殺率が低いと言えるのではないだろうか。

(B) 自殺者の形態

次に、実際に自殺した人達の中から、マスメディアが大きく取り上げた有名人の自殺の形態を検証してみよう。

(1) 将来の先行きの不安による自殺——芥川龍之介

芥川龍之介が自殺したのは、昭和2年（1927年）7月24日午前6時半のことであった。睡眠薬を多量に飲んで死んだのである。枕辺には、夫人、菊地寛、小宮隆一の3人に宛てた遺書が残されていた。自殺の動機は、「将来へのぼんやりした不安」だというのである。このとき芥川は36歳であった。

芥川龍之介が死んだ理由は、鬱病説と作家としての行詰り説があるが、未だに解明されていない、とノンフィクション作家の保阪正康氏は述べている²³⁾。もう一つの説として、この時代に台頭してきた Kommunismus に驚き、社会主義的国家を予見したからだという意見がある。芥川は Kommunismus を予見しながら、自分自身はその運動にコミットするだけの勇気がなかったから、「ぼんやりとした不安」をもったというのである。

評論家の臼井吉見氏は、「自殺の原因など、芥川自身にだってわからなかったに違いない」と言い、「『少なくとも僕の場合は唯ぼんやりした不安である』という『或旧友へ送る手記』の言葉の他にはなににもなかったであろう」と述べている。また、葛巻義敏氏は、「狂人の娘」が芥川の自殺の原因の30%を分け持っているという江口渙氏の見解に触れて、「狂人の娘」の問題は、自殺の一週間ほど前に解決したので、それだけ危ないと感じたと言っている。即ち、それまでは死ななければならない原因があると考えられたが、それがなくなったから、かえって危ないと思ったというのである²⁴⁾。いずれにせよ、今日に至るも芥川の自殺に関する明確な原因は解明されていないのである。

(2) 主義・主張による自殺——三島由紀夫

昭和45年（1970年）11月25日午前11時、三島由紀夫は、自らつくった「楯の会」の会員森田必勝、小賀正義、小川正洋、古賀浩靖と共に、東京・市ヶ谷の陸上自衛隊東部方面総監部の益田兼利陸将に面会するために総監室に入った。しばらく雑談した後、突然、益田陸将を椅子に縛りつけ、隊員を本部前に集めるよう要求した。

本部前に集まった隊員に、三島は、「自衛隊員よ、決起せよ」と演説、それが受け入れら

23) 保阪正康『歴史を動かした昭和史の真相200』（日本文芸社）2003年 p.22。

24) 臼井吉見『芥川龍之介』（現代文学大系）（筑摩書房）昭和38年、pp.494～495。

れないことを知ると、総監室に戻り、古式に則った割腹自殺をし、森田が介錯した。そのあと森田が切腹、他の会員が介錯した²⁵⁾。

ノーベル文学賞有力候補者の三島由紀夫の割腹自殺は、世界的な反響を呼んだ。当時の佐藤栄作首相は、「三島は気が狂ったのか」と言い、中曽根康弘防衛庁長官は、「民主的な秩序を崩すものだ」と言い、誰もが三島の行動に批判的であった。

何故、誰にも理解されなかった行動を、三島は起こしたのか。総監室前のバルコニーに張り出された檄文には大筋次のようなことが書かれていた。

- (1) われわれ楯の会は、自衛隊によって育てられ、いわば自衛隊は、われわれの父でもあり、兄でもある。
- (2) われわれは戦後の日本が、経済的繁栄にうつつを抜かし、国の大本を忘れ、国民精神を失ってしまった。
- (3) 今や自衛隊にのみ、真の日本、真の日本人、真の武士の魂が残されている。
- (4) 然し、自衛隊は、現在の憲法下では、「違憲」であり、最も悪質な欺瞞の下に放置されてきた。
- (5) それ故、その状態から脱却し、名誉ある国軍となることを切望する。
- (6) そのためには、憲法改正が必要だが、現在の議会制度下では難しく、治安出動が唯一の好機である。
- (7) その好機も、昭和44年（1969年）10月21日の国際反戦デーの騒ぎを警察が制圧することにより、失われてしまった。
- (8) このため、憲法の私生児であった自衛隊は、皮肉にも護憲の軍隊となってしまった。
- (9) こうなった以上、自衛隊は、「自らの力を自覚して、国の論理の歪みを正すほか道はない²⁶⁾。

以上のような檄文を掲げて、三島は自衛隊員に決起を促したが、自衛隊員の反応は冷たく、野次を飛ばされるだけであった。

三島は、声を嗄らして「自衛隊がここで立ち上がらなければ、憲法改正はないんだ、諸君は永久にアメリカの軍隊になってしまうんだぞ」と演説しても、誰一人聞き入れる者はなかった。

新聞記者の時代から、三島由紀夫を追跡し研究してきた松本徹氏は、「三島が最も危惧したのは、じつは日本がアメリカの実質完全占領下に陥ることよりも、その「屈辱」に甘じつ

25) 保阪正康「歴史を動かした昭和史の真相200」p.206。

26) 松本徹『三島由紀夫の最期』（文芸春秋）平成12年、p.24。

づけることが招き寄せる自己欺瞞、偽善、追従が、われわれ自身の生活、分化を腐らせることであった。しかし、時代は、誇りや栄誉など目に見えない、なんの役にもたたないものは、この世に存在しないとすますようになってしまっている——。しかし、自衛隊には、わずかながらも利害や事の成否を問わず、生死を越えて、自らの誇りを高く掲げようとする「武士の魂」を持つ人があるだろう。その「武士の魂」に、三島もまた、「武士の魂」を持つ自立した精神の誇りに命を賭ける者として、呼びかけようとしたのだ」と述べ、理解を示している²⁷⁾。

三島由紀夫が自決して34年経過した今日、アメリカのブッシュ大統領の要請を受けた小泉純一郎首相は、日本国憲法を改正しないまま、イラクの人道支援という名目で、自衛隊を派遣させているが、墓場の影で三島はどのように感じているだろうか。

(3) 思い込みの激しさによる自殺——川端康成

日本人で初めてノーベル文学賞を受けた川端康成は、昭和47年(1972年)4月16日、鎌倉の逗子市のマンションでガス自殺を遂げた。保阪正康氏は、「川端康成は、三島由紀夫が自殺して以来、ずっとふさぎこんでいたことから、三島由紀夫の自殺が影響しているのではないか」と言っている²⁸⁾。

三島と川端の自殺には、日本的なるものの一切が薄れていくことへの反感があり、物質至上主義の価値観にたいし、激しい怒りに代わっていったのではないとも言っている。

然し、臼井吉見氏の見解は全く異なっている。彼の著書『事故のてんまつ』によると、安曇地方に住む庭繁の庭師の娘——縫子というお手伝いへの激しい執心によるものであると主張している。その年の秋に開かれる日本文化研究の国際ペン大会まで川端康成の身のまわりの世話をしてほしいと何度も縫子というお手伝いに頼んでいたが、3月までの約束を1ヶ月伸ばして4月末までお世話したあとは実家に帰ることを決めこみ、川端の要請を断ったのである。

それが原因で、川端康成は、4月16日の午後、誰にも告げず、一人で逗子のマンションに出かけ、ガストーブの青いゴム管を引っばって自殺したのである。

縫子と別れることの辛さが川端康成の自殺を決意させたのではないかと、臼井吉見氏は推測している。その理由として、縫子自身が「先生、おゆるし下さい」と胸の中で謝って合掌していることと、川端夫人が縫子の耳元に「あなたが、昨日承知していてくれていたら、先生は死ななかった、あたしはそう思う」と、ささやいたからである²⁹⁾。

27) 松本徹『三島由紀夫の最期』(文芸春秋)平成12年、pp.195~196。

28) 保阪正康『歴史を動かした昭和史の真相200』p.212。

29) 臼井吉見『事故のてんまつ』(筑摩書房)1977年、pp.85~92。

ノーベル文学賞受賞者で、社会的地位の高い72歳の川端康成が、20代の女性への激しい思い込みによって自殺したという推測は、果たしてあり得るのだろうか。

（４）上司を護るための自殺——竹下登首相の秘書

昭和63年（1988年）6月17日、川崎市で発覚した同市助役の未公開融資付売買疑惑を発端に、リクルート・コスモス社の未公開株がトンネル会社を通じて政・財・官の有力者76人にばらまかれていたことが判明した。その翌月リクルート会長の江副浩正が引責辞職した³⁰⁾。

店頭公開後に株価がはね上がるが見込まれる未公開株を、江副浩正がリクルートの事業と関係する政・官界者に譲渡することは、何らかの見返りを期待する利益供与に当たるのではないかという疑惑が浮上したのである。東京地検捜査部は、リクルート側幹部4人を贈賄罪で起訴し、平成3年5月までに収賄罪で3人の有罪が確定、政治家秘書ら4人が政治規制法違反の罪で略式起訴され罰金刑を受けた。

このリクルート事件は、竹下内閣崩壊のきっかけとなったが、「妻がもらった」とか、「秘書が受け取った」と言って、有力政治家の責任逃れの醜態ぶりがマスメディアに大きく報道された。

その中で、竹下登首相の青木秘書が東京地検特捜部の執拗な取調べに耐えきれず、自殺したのである。青木秘書が自殺したのは、竹下登首相を護るためであった。奇しくも彼が自殺した日は、平成元年（1989年）2月24日の昭和天皇の大喪の礼が行われた日であった。この日、激しく冷たい雨が降りしきる中、英国皇太子をはじめとする各国を代表する著名人や外国政治家が多数参列していた。葬儀が行われていた間、テント内の前列に着席して静かに進行を見守っていた竹下首相のもとに一枚の紙片が届けられた。その紙片には青木秘書の自殺の報告が書かれていたのである。その紙片を見たとき、沈痛さの中にも毅然たる態度を失わなかった竹下首相の表情が余りにも印象的であった。

これに対して、田中角栄元首相の榎本敏夫秘書は自殺しなかったから、田中角栄はロッキード事件で有罪判決を受け、政界から消えていったと言えるのではないか。

昭和58年（1983年）10月12日、アメリカのロッキード社がトライスターを全日空に購入してもらうために、丸紅から5億円を受け取ったことにより、受託収賄の罪で懲役四年、追徴金5億円の判決を受けた。この事件は、榎本秘書が金銭の授受を認めたからであると言われている。田中元首相の秘書が金銭の授受を飽くまで認めなかったら、田中元首相は逮捕されることはなかったのではないか。榎本秘書は上司を護るために自殺をしなかった。むしろ自分の家族を護るために自殺できなかったのではないか。

30) 保阪正康『歴史を動かした昭和史の真相200』p.242。

ロッキード事件は、田中元首相を抹殺するための政治的謀略であったという説がある³¹⁾。田中元首相が打ち出した資源政策が「反ユダヤ的行為」であったから抹殺されたのではないかと言うのである。いずれにせよ、政治家の運命は所属秘書の力量にゆだねられており、場合によっては自殺までして政治家を護らなければならないのである。竹下元首相の秘書と田中元首相の秘書は余りにも対照的であったと言えるだろう。

(5) 心労による自殺と鬱病からの脱出——竹脇昌作と竹脇無我

「そのころ、僕の頭の中は「死にたい衝動」で埋め尽くされていた。ビールを飲んでいても、道を歩いていても、人と話していても、何をやっていてもとにかく死にたい。お前は生きてちゃいけないと、何かが絶えず僕を呼ぶ。

その声に、何度も身を寄せようとしたけど、寄せきれなかった。勇気がなかった。生きることも死ぬこともできない。そのはざまで、半分死んだ生活が続けていた。……³²⁾」

これは映画俳優の竹脇無我が鬱病で苦しんでいたときの告白である。「死にたい衝動」が起こるのは、竹脇無我自身の生活の疲れから湧き起こるものだが、遠因は父の竹脇昌作の自殺にあると言えるだろう。

竹脇無我が高校一年のとき、父昌作は、不眠症治療のために五ヶ月間入院したあと、昭和34年（1959年）11月9日、自宅で首つり自殺をした。息子の無我は、その時青山学院高校の一年生であった。学校の先生から、「竹脇、家に帰れ」と言われたとき、「あ、親父は死んだな」と思ったという。

父、竹脇昌作は、NHK ラジオ放送の美声アナウンサーとして人気を博し、退社後「読売国際ニュース」や、「パラマウントニュース」といったニュース映画の解説者として一世を風靡した大変な有名人であった。竹脇無我は、父の死について「好きでやりがいのある仕事につき、気概と責任感をもって働いていた父。だが、求められるまま「俺じゃなきゃ」と次々に引き受けた仕事は、いつしか父の精神的・肉体的キャパシティーを越えてしまったようだ。しだいに父は体調をくずし、明るさを失っていった」と述べている³³⁾。当時のマスコミは、「売れすぎた悲哀」とか、「秒針に追い回されて」とか、「電波に殺された」と書き立てられ、家族をそっとさせなかったのである。

それでも竹脇無我は、父の友人の紹介で映画の世界に入り、順調にスターの座を確立していった。最盛期には年間10本前後の映画に出、1970年代にテレビドラマの仕事を増やしてい

31) 木村喜助『田中角栄 消された真実』（弘文堂）平成14年、pp.322～324。

32) 竹脇無我『凄絶な生還——うつ病になってよかった——』（マキノ出版）平成15年、pp. 1～2。

33) 同上、p.44。

った。その間、次兄の真理は脳腫瘍で、父の死後約1年後に18歳で亡くなった。長兄も網膜剥離の悪化で、両眼を失明している。

このような家族環境の中で、「清潔感あふれる知的でやさしい」俳優としてスターの座を昇りつめた竹脇無我は、結婚して二人の娘をつくった。然し、多忙な仕事のため家に帰らなくなり、映画女優十朱幸代との不倫問題で家庭を振り返りなくなった。竹脇無我が鬱病になったのは、「父から受け継いだ気質が基盤にあるとは思いますが、それだけでは発症しなかっただろう。自分で招いた数々の厄介ごとに、気持ちが押しつぶされてしまい、処理できるキャパシティを越えたときに病気になったような気がする」と告白している³⁴⁾。

平成8年(1996年)1月下旬、専門病院で「鬱病」という診断を受けた竹脇無我は、入院して治療に専念した。彼の場合、「鬱状態」と「躁状態」が交互に繰り返す「躁鬱病」であった。6月に退院したが、ひと月経たないうちに、また雲行きがおかしくなり、体がだるくなり、気分が落ち込んでしまうのである。仕事に復帰しても不安が大きくなっていったのである。このような閉塞感から脱却するため、缶ビールをもって九階から飛び降りることを何回か試みようとしたが、できなかったのである。閉塞感から脱け出すために、酒の力を借りながら、なんとか仕事をこなしていたが、1999年12月25日の夜、遂にホテルから救急車で病院に運ばれてしまうのである。その後、竹脇無我が鬱病から脱け出すことができたのは、一に休養、二に薬の助け、三に治したいという自分の気持ち、そしてもう一つは周囲の人々の暖かい支えがあったからである。

「鬱病の人は、励ましてはいけません。励まされると、自分自身が極限まで頑張っているのに、どうしていいかわからなくなる。鬱病のとき、仕事などの責任を果たせていないことは、自分がよく知っている。わかっていて動けないからよけい落ち込むのだ。だから、そっと見守ってくれるのが何よりもありがたい」と、竹脇無我は言う³⁵⁾。

仕事仲間の森繁久弥から手紙をもらったのは、竹脇無我がテレビで森繁が胆石で入院したことを知って、お見舞いを兼ねた手紙を出したからである。森繁の手紙——「……ユダヤの格言の中に、人間は泣いてばかりでは生きられない、また笑ってばかりでも生きられぬ、と言うのがあります。交互にやればいいでしょう。太陽だってそれがあります。まして人間だって……」——と、加藤剛の手紙——「かの偉大なるシェイクスピアも、「世界は舞台。人間はみな役者」といっているではありませんか。躁も鬱も我がお手玉と思えば、そんなに気も滅入りませんよ……」——を、竹脇無我は宝物にしているという³⁶⁾。

34) 竹脇無我『凄絶な生還——うつ病になってよかった——』(マキノ出版)平成15年, p.73。

35) 同上, p.120。

36) 同上, p.124~127。

二人の友人の支えと自分自身が治したいという強い意志があったからこそ、竹脇無我は鬱病から脱出することができたのである。

〔4〕 人間の救済

竹脇無我のように自殺を乗り越え、鬱病から脱却した人間は、何を求めて生きていくべきであろうか。

筆者の専門研究対象の一人であるイギリス作家、Aldous Huxley の代表小説 *Point Counter Point* に登場する Marjorie Carling の心的態度を紹介したい。

Marjorie には酒好きの夫がいたが、いつも虐げられていた。そこに Walter Bidlake が現れ、彼女に同情して愛を育むようになった。ところが彼女が妊娠すると、はるかに魅力的な Tantamount 家の娘 Lucy に惹かれてしまう。

Point Counter Point に登場する人物の中でもう一人の重要人物、しかも Huxley が崇拝する D. H. Lawrence をモデルにしたといわれる人物、Mark Rampion がいるが、Aldous Huxley は Rampion に「人間が人間以上の神とか絶対とかを探しはじめると、その時から人間でなくなり、人間としては墮落するのだ、感覚や本能によって認識できるものを離れて、知性や思索によって神を求めるものは人間をゆがめてしまう」と言わせている³⁷⁾。

Huxley は、Rampion の主張を証明するために感覚や本能によって認識する〈唯一の完全〉、〈唯一の絶対〉を Marjorie Carling に見出させている。Huxley が求めていた神は Marjorie Carling の心の中に存在するのである。

Marjorie が妊娠しているにもかかわらず、Walter Bidlake は相変わらず Lucy を追い求めていた。そんな状況の中で、Marjorie は Lachel Quarles に出会い、心の安らぎを感じるようになる。Quarles 夫人は、Marjorie が自分の夫を棄てて他の男（Walter）に走ったのは間違った行為であると考えている。夫人はその行為を赦すことは出来なかったが、Marjorie を責めることはしなかった。

Marjorie が三度目に会った時、彼女は Quarles 夫人に一切を打ち明けると、不思議な力と慰めを得るのである。「ここに来てあなたと御一緒にからずっと幸福な気持ちになりました」と Marjorie が言う³⁸⁾、「それはあなたが幸福になろうと努めたり、なぜ自分は不幸なのだろうと考えたりしないからです。幸不幸という観点からばかり考えなくなったからで

37) Aldous Huxley *Point Counter Point* (Chatto & Windus) 1954, p.561.

38) 同上, p.484.

す」と、Quarles 夫人が答えるのである³⁹⁾。

このように Marjorie が幸福を感じるようになったのは、自分が幸福になりたいという願望を棄てて、もっと立派な人間になろうと考え始めたからである。

その後、Marjorie は老医師の Fisher に会い、妊娠が4ヶ月目に入り、母子ともに健康であると告げられて帰宅するが、家の中はWalterは勿論、メイドもいない裳抜けの殻であった。然し、以前とは違って Marjorie は、^{ひとけ}人気のない部屋の静けさの中で、水晶のような、音楽のような透明さを感じるのである。これまで不透明にしていたすべてのもの——世の中の喧騒も騒音も、個人的な心配も欲望も感情もすべてが^{おり}澱のように沈澱しはじめて、ゆっくりゆっくり底に沈んでいくのである。濁っていた液体がますます澄み渡り、透明になって消えていくその向こうに現れたのは、万物の根元となる無であった。この無こそが唯一の完全、唯一の絶対であると Huxley は言う⁴⁰⁾。

Aldous Huxley が求めてきた宗教は、東洋仏教の「悟り」であり、「解脱」であった。「解脱」とは、煩惱に縛られている状態から解放され、迷いの苦しみを脱するために修業を重ねることによって真理を悟り、煩惱を断って一切の束縛から脱することをいうのである。

このように外国の作家にとって東洋仏教は人間を救済するのに大変魅力的な宗教であると感じられている。然し、日本人は東洋の宗教——特に日本の仏教に対しては無関心である人達が多い。

梅原猛氏は、「現代日本は、近代化することによって、日本の伝統的な仏教や儒教といった宗教を失ってしまった。かといってキリスト教を受け入れたわけではない。韓国などと比べて、キリスト教信者はずっと少ない。われわれは宗教を失った時代に生きている。宗教を失ってもいいが、それによって道徳も失ってしまった。ドストエフスキーが言ったように、神を信じなかったら、道徳はなくなる。道徳がなくなったらなにをしてもよい、という時代に入っているのではないか」と悲観的である⁴¹⁾。

仏教の人口比率は、世界宗教の人口比率と比較すると、わずか6%にすぎない。世界人口を約60億人と仮定すると、世界の仏教信者は3億6,000万人にすぎない。キリスト教信者が19億8,000万人(33%)と最も多く、次いでイスラム教信者が11億4,000万人(19%)、ヒンズー教信者7億8,000万人(13%)となり、その他は16億8,000万人(28%)である⁴²⁾。

日本人は、「あなたの宗教は？」と聞かれると、「無宗教」と答える人が多いと言われている

39) Aldous Huxley *Point Counter Point* (Chatto & Windus) 1954, p.484.

40) 同上, p.496.

41) 梅原猛『梅原猛の授業——仏教』(朝日新聞社) 2002年, pp.25~26.

42) ひろさちや監修『3日でわかる仏教』(ダイヤモンド社) 2002年, p.35.

る。それほど日本人には宗教意識がないのである。無宗教とは、「倫理観のない、誰にも見られていなければ何をしてもいいと思う、善悪の基準を持たない人」のことを言うのである⁴³⁾。日本人の宗教感覚は、日常生活の中に自然に身につけているので、決して「無宗教である」と言うべきではない。自分の育った家の中に先祖を祀る仏壇があり、正月には神社仏閣に初詣でをし、人が亡くなると、大半の日本人は仏式の葬儀に参列している。8月のお盆には先祖の死者が現世に戻ってくるが、「盂蘭盆」^{うらぼん}を営み供養している。ただキリスト教信者のように、毎日曜日に教会に出向いて礼拝しないだけである。

日本人が仏教に積極的関心を示さない理由として考えられるのは、キリスト教やイスラム教のように一神教ではないということである。仏教には数多くの宗派がある。勿論、キリスト教にも様々な宗派があるが、日本の仏教はそれ以上に複雑である。日本の仏教宗派には、天台宗、真言宗、浄土宗、浄土真宗、時宗、臨済宗、曹洞宗、日蓮宗などがある。そしてそれぞれの宗派は、さらに分派している。例えば、高野山を開創し、金剛峰寺を建立して「即身成仏」^{そくしんじょうぶつ}を説いた空海が創始した真言宗は20派に別れている。また、「絶対他力」を説き、悪人正機説を強調した親鸞の浄土真宗は10派に別れている⁴⁴⁾。

日本人に仏教を理解しにくくさせているもう一つの理由は、仏像の種類が多すぎることである。京都の東寺の講堂を訪れると、そこには空海の仏教思想が広がっている。東寺は、時の嵯峨天皇が平安京の都を守る寺として空海につくらせた寺である。その講堂には二十一体の仏像が配置されているが、空海が自分の思想を表現するためにつくったのである。梅原猛氏は、「空海は、彼独自の曼荼羅思想をここに表現した」のだと言っている⁴⁵⁾。仏像には如来、菩薩、明王、天部の四種類がある。ところが、如来には、釈迦如来、薬師如来、阿弥陀如来、大日如来がある。その中で空海は大日如来を宇宙の中心の仏にしている。菩薩にも観音菩薩、勢至菩薩、地藏菩薩、普賢菩薩、文殊菩薩がある。菩薩は、これから悟りを開く如来の候補者である。明王には、不動明王、大威徳明王、軍荼利明王^{ぐんだり}があり、如来や菩薩を守る仏であり、恐れ顔をしている。天部には、多聞天、持国天、広目天、増長天など四方を守る四天王がある。それ以外に帝釈天や梵天があり、弁天とか大黒といった福の神も天部に属している。このように東寺の講堂には、如来が五体、菩薩が五体、明王が五体、天部が六体あり、これらの仏像を一つ一つ判別することは大変困難である。

有名な作家でも仏像判別の間違いが見られる。例えば、与謝野晶子は鎌倉の大仏を「かまくらや みほとけなれど 釈迦牟尼は 美男におわす 夏木立かな」と歌っているが、鎌倉

43) ひろさちや監修『3日でわかる仏教』（ダイヤモンド社）2002年、pp.18～19。

44) 同上、pp.71～101。

45) 梅原猛『梅原猛の授業——仏教』pp.158～162。

の大仏は阿弥陀仏である。また、芥川龍之介が書いた「蜘蛛の糸」では、お釈迦さまが極楽浄土の蓮の池の周りを散歩し、上から蜘蛛の糸を垂らして下の地獄で苦しむカンダタを救う話であるが、ここは西方浄土なので本当は阿弥陀仏のはずだと、ひろさちや氏は言っている⁴⁶⁾。

また、「祇園精舎の鐘の声」で始まる『平家物語』にも誤りがある。祇園精舎はインドの寺院をさすが、インドの精舎には鐘はなかったのである。

このように有名な作家ですら、仏の判別ができないのである。判別するには脇侍の菩薩をみるか、仏の手印を見て見分けなければならない。日本人の宗教的寛大さが、菩提寺の宗派や仏像には無頓着であることを実証している。

もう一度、Aldous Huxley の宗教観に戻ってみよう。Aldous Huxley は、宗教の根本にあるのは、「純粹に神を見ること」であると言っている⁴⁷⁾。彼はそれを実証するために東洋の宗教を研究し、神秘主義思想に没入した。初期キリスト教では、神は先ず治めるひと、裁くひとであったが、中世になると、倫理的教義が全面に出され、贖罪中心主義になり、倫理的、精神的な言葉が強調されるようになる。

Aldous Huxley は、ヨハネ伝第4章24節の言葉「神は霊である。だから神を礼拝する者は霊と真理（まこと）をもって礼拝しなければならない」にあるように、神は「霊とまこと」をもって礼拝しなければならないと言っている。これは神の实在を直観するためである。Huxley は、人間の終局目標は「神との合一」であると言っている。それはヒンズー教や大乘仏教や道教の文献に見られるからである。

Aldous Huxley の最後の小説、*Island* は、評論家の評判はよくなかったが、パラと呼ばれる島に住む住民は大乘仏教のタントラ派仏教を信じている。この小説の中でも、「西洋の哲学者は空論家であるのに対して、東洋の哲学者は実践家である」と言っているが⁴⁸⁾、Huxley の心の中には、絶えず東洋の仏教が住みついている。彼の東洋仏教崇拜は、理想的人生態度として掲げていた「無執着」から、「解脱」へと高めている。

Huxley は、祈り、断食、霊的修練など「日常生活のヨーガ」を通して、「我」を超越し、輪廻の世界から解脱して、涅槃の境に入り、そこで「実体」をつかむことが人生の窮極の目的であると言っている⁴⁹⁾。この小説では、その「実体」を体験するためにモクシャ薬を飲むのである。そして真如に「生きる体験」が与えられるのである。

Aldous Huxley の「無執着」思想に匹敵する日本の仏教家として、空也上人が考えられる。

46) ひろさちや監修『3日でわかる仏教』pp.192～193。

47) Aldous Huxley *The Human Situation* (Chatto & Windus) 1978年, p.203。

48) Aldous Huxley *Island* (Chatto & Windus) 1966年, p.76。

49) 成田成寿編『ハックスリー 20世紀英米文学案内17』（研究社）1967年, p.139。

空也上人は、浄土教を法然や親鸞よりも早く日本で広めた僧侶であることは余り知られていない。空也の出生は謎に包まれ、出自は明らかではなく、一説では醍醐天皇の第2皇子とも第5皇子とも言われている。若い頃から優婆塞（在俗の修業者）^{うばそく} となって、念仏を称えて、諸国を遊行しながら、橋を架けたり、井戸を掘るなどの社会事業を行った。20歳の頃、尾張の国分寺で剃髪して私度僧となり、諸国行脚を続け、36歳で京都市中に現れ、乞食^{こつじき} して得た施物を貧しい人々に与えて念仏を勧めたのである。46歳で比叡山に上り、天台座主延昌によって受戒して正式な僧侶となり、それ以降は貴族の帰依も受けるようになったのである⁵⁰⁾。

昔ある人が空也上人（903-972）に、「念仏はどのように称えたらよいでしょうか」と尋ねると、上人はただ一言「捨ててこそ」とだけいわれ、ほかには何もいわれなかった。

この一文は西行法師（1118-1190）の『撰集抄』に記されている。「捨ててこそ」の意味は、公方俊良氏によると、「愚痴や不平不満を生じ、不幸から抜け出せないのは、一つに、捨て切れないことによる。知識や無知、地位や身分の上下、見栄や外見へのこだわり、経験の有無など、一切のものを捨て切ったとき、そこに新しい天地が開けてくるものだ」と説明している⁵¹⁾。

空也上人の「捨ててこそ」は、Aldous Huxley が *Ends and Means* の中で、延べている思想と同じであると言えるのではないか。今日変革を唱える者は、社会組織を改革すれば、人間問題も解決されるというが、それは間違っている。人間性の根本にまでさかのぼった解決がなされない限り、つまり人間の内面的改革がなされない限り、正しい社会組織の改革はあり得ないのだ。イザヤからマルクスに至るすべての予言者が説いているのは、自由、正義、平和、同胞愛の行われる社会の実現である。そして理想社会の人間像は、自己にも、権力にも、財宝にも執着しない「無執着」の人間であり、それに根ざした「愛」の実践を行う人間であると言っている⁵²⁾。

外国の作家—— Aldous Huxley と日本の仏教家——空也上人との接点を求めながら、人間の救済について考察してきたが、これらの接点から何が得られるのだろうか。それは、道元禪師が『正法眼藏』の中で説いている「仏道の修業」である。

仏道を修めることは、自己を修めることにある。自己を修めるということは、自己を忘れることである。自己を忘れることは、認識の対象となるものから、自己が照らし出されることである。認識の対象から自己が照らし出されるということは、自己の身心と対象の間に、自他の対立がすっかりなくなることであり、これを悟りという。真の悟りとは、悟った跡形

50) ひろさちや監修『3日でわかる仏教』p.122。

51) 公方俊良『人を動かす論し方』（経済界）1994年、p.21。

52) Aldous Huxley *Ends and Means* (Chatto & Windus) 1965, pp.1~10。

さえもなくなった状態をいい、このような境地を日常生活のうえで実践していくことである。⁵³⁾
このような仏道の修業が人間の救済となるのである。

〔5〕鎮魂をこめて

平成16年（2004年）3月8日早朝、浅田農産浅田肇会長夫妻の首吊り自殺は余りにも衝撃的だった。

古ぼけた鶏舎のそばの外からの視界が遮られた空き地に楠の二本の幹のそれぞれに麻縄をかけ、背中合わせに首を吊っていた。

8時前に従業員から知らされて駆けつけてきた息子の秀明社長は、会長夫妻を楠から下ろして寝かせ、布団をかけた。捜査員が到着した時、社長は両親の傍らに膝をついて涙を流していたという。

京都府丹波町にある浅田農産船井農場の鶏から鳥インフルエンザの陽性反応が出たことに端を発した騒動は、3月8日に会長夫妻の自殺という衝撃的な展開によって幕を閉じた。

鶏のエサ代だけで1日500万円、従業員の給料を合わせると1ヶ月で2億円かかるという。3月10日に銀行への支払いが迫っていたのである。事業を起こした当初は、次々に養鶏場を建設し、現在では5つの養鶏場で175万羽を飼育し、昨年の売上高は32億円に上るまでに成長し、サンテレビの阪神戦中継のスポンサーまでしていたのである。

これほどの企業力がありながら、鳥インフルエンザの感染によって、老夫婦の生命が奪われた最大の理由は、感染に気づきながら鶏肉と鶏卵の販売促進に走ったからではないかという疑惑に耐えられなかったからである。

3月19日付の「朝日新聞」（夕刊）によると、鳥インフルエンザの感染源は、韓国から飛来したカラスではないかという疑いが高まっているが、農林水産省は、渡り鳥や野鳥、人間などによって韓国から持ち込まれたのではないかとほぼ断定している。遺伝子レベルでH5N1型のウイルスとほぼ一致したのである。

直接的には、何の責任もない老夫婦は、間接的責任の重大性から自殺しなければならないとしたら、余りにも痛ましい自殺である。

『バカの壁』（新潮新書）を340万部以上売って、一躍ベストセラー作家になった元東京大学医学部（解剖学）教授、養老孟司氏は、新作『死の壁』（新潮新書）の中で、「自殺は殺人

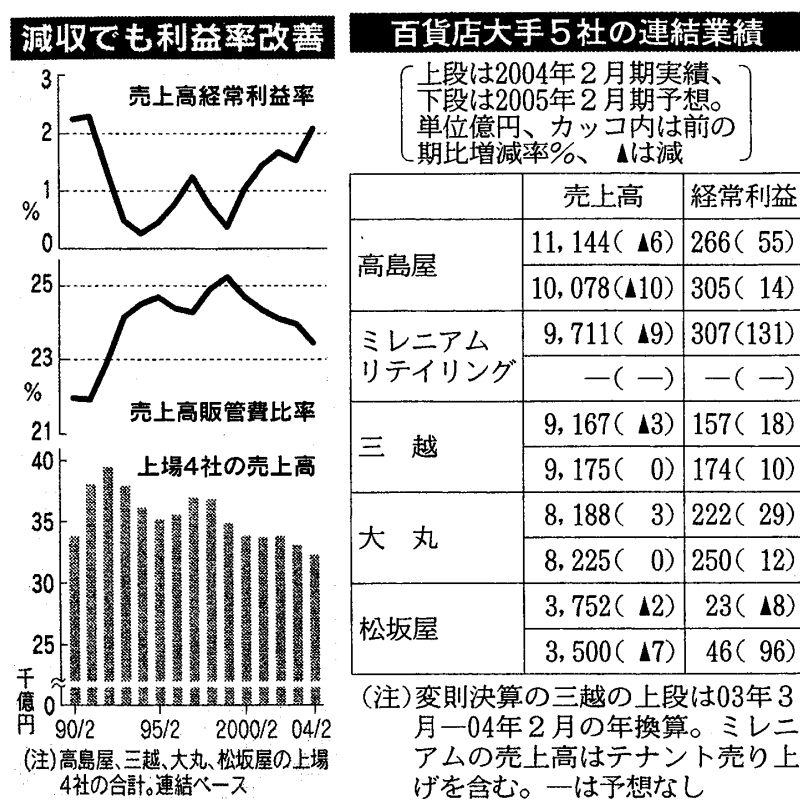
53) 公方俊良『人を動かす論し方』pp.199～200。

の一種であり、周囲の人に大きな影響を与えてしまう」⁵⁴⁾ という理由から、自殺に反対している。その養老孟司氏は、ある週刊誌の中で、浅田夫妻は「世間」を相手にしたから自殺せざるを得なかったのだと言っている。日本の社会生活の中では「世間」を気にして生きることが暗黙の約束になっているからである。そのように考えると、浅田夫妻は「社会的制裁による自殺」と言えるのではないか。

2004年4月に入ると、個人投資家の積極的な参加により、株価は12,000円台に回復している。円も1ドル105円から109円台に落ち着き、日本銀行はドル買い介入を控えている。また、大手百貨店（高島屋、ミレニアム・リテイリング（西武とそごうの合併）、三越、大丸、松坂屋）も業績回復基調が見られ、「薄日」が射し出したと、「日経」は報じている⁵⁵⁾。

然し、よく調べてみると、売上高は大丸を除いては軒並み減少しており、経常利益が増加したのはリストラを積極的に推進した結果であって、必ずしも個人消費の改善が見られるとは言えないのではないか。

図4：大手百貨店5社の2004年2月期決算



「日経」（2004年4月23日）より。

54) 養老孟司『死の壁』（新潮新書）2004、p.174。

55) 「日本経済新聞」2004年4月23日付

平成16年（2004年）4月23日、経済界に衝撃が走った。2000年に発覚したリコール隠しの影響で業績が低迷していた三菱自動車(株)に親会社のダイムラークライスラーは、三菱自動車の増資計画に参加せず、金融支援を行わないことを公表した。当初、三菱自動車は、三菱グループから1,000億円超とダイムラーから2,500億円規模の計約4,000億円の調達を得て再建する手筈になっていたのである。⁵⁶⁾

ダイムラー側は現在保有する37%の三菱自動車の株式を売却する可能性を示している中で、事業継続には新たな提携先探しが不可欠であると、「朝日」は解説しているが、もし経営再建が不可能になると、従業員4万5,000人が路頭に迷うことになる。

最高裁判所の報告によると、2003年の破産申し立ては、2003年11月までの時点で過去最悪を突破して22万695件を記録している⁵⁷⁾。不況の影響から、リストラ失業や賃金カットに苦しむサラリーマンの自己破産が目立っており、住宅ローンや子供の教育費などで生活費はかさむ一方なのに、いきなり収入がなくなったり、手取りが減り続けているからであると、分析している。その結果、消費者金融に手を出し、気づいたら返済不能に陥る人が増えているのである。自己破産者の申し立ての増加は、自殺や犯罪が増加し、社会不安がますます広がる可能性をはらんでいると、自己破産支援センターの山瀬和彦氏は言っている。

衝撃的な社会的制裁を受けて自殺した浅田農産会長夫妻、株価は上昇しても依然として伸び悩んでいる個人消費、4万5,000人の従業員をかかえた三菱自動車(株)の経営再建計画の暗礁など、日本の経済社会は2004年に入っても明るい兆しが見られるとは言えない。4月23、24日の両日、ワシントンで開かれた主要7ヶ国財務相・中央銀行総裁会議（G7）は、世界経済の回復に自信を示す共同声明を採択したが、国際連合を無視して一方的に仕掛けたブッシュ大統領のイラク戦争は、ベトナム戦争と同じように泥沼化し、世界中の人々を不安に陥れている。2001年9月11日の米同時多発テロが起こってから、世界全体が自殺に向かっていると言えるのではないだろうか。

筆者は、これまで友人や知人から親族が自殺した話をよく聞かされてきた。ガス自殺をした者、首吊り自殺をした者、列車の飛び込み自殺をした者、焼身自殺をした者など、自殺方法は様々であったが、どの場合も痛ましく、親族にとっては辛くて耐えられない出来事である。自らの意志で自らの生命を絶ったこれらの人々に心から冥福を祈り、「安らかに眠れ」と鎮魂をこめて、この論文を捧げたい。

（第5章は初校段階で加筆したものである。）

（以上）

56) 「朝日新聞」2004年4月23日付

57) 「日刊ゲンダイ」2004年1月28日付

On the Identity of Japanese People (2)

Mitsuo FURUSAWA

First of all, I introduced Ruth Benedict and Lafcadio Hearn's viewpoints of Japanese people fifty years or one hundred years ago.

In the present days, Japanese people are worried about different anxieties. And the persons who commit suicide are increasing from year to year.

In this paper, I investigated the causes of anxieties based on the ASAHI PRESS. And I analysed the prefecture distinctions of the suicide and the difference between the number of Japanese suicide and that of other countries' suicide. And I inquired into the patterns of the well-known persons who had committed suicide in Japan.

Lastly, I investigated the salvation of Man, and I put my finger on the strong resemblance between Aldous Huxley (an English writer)'s Orient Buddhism worship and the thought of Kuya Shonin (a holy priest).